

# 福岡県遠賀郡の金石文集成 三 岡垣町、遠賀町篇

中村修身

## はじめに

前二回は旧遠賀郡内(中間市・水巻町と芦屋町)の金石文について報告させていただいた。今回はその続きとして、遠賀町・岡垣町内に関連する金石文の報告をさせていただくこととした。なお、集成は原則として江戸時代末までとした。

資料の紹介にあたっては、物件ごとに、銘文の書かれている物件、その現所在地、銘の書かれている部分そして銘文の順に記し、各物件の紹介の後にそれぞれに対する雑記を加えたものもある。

史学論叢に発表の場をご提供いただいた、別府大学史学、文化財学科関係の諸先生、情報提供いただいた岡垣町教育委員会の諸氏、貴重な御物や文化財に快く触れる機会を与えていただいた関係者の方々に深く感謝の意を表します。

## 銘文の紹介 岡垣町篇

### 1 梵鐘 岡垣町黒山 千手寺旧蔵

第一区

大日本國筑前州遠賀庄

黒山千手寺

洪鐘一口

大檀那 沙弥良教

第二区

右志趣者奉爲天長地久

御願圓満海晏河清國泰

民安兵革頓息五穀豊登

殊者信心檀那二世悉地成就

満足故也

第三区

大檀那左今吾

宇佐宿祢公光三寶名元妙

第四区

皆明德五年癸戌卯月廿八日

大願主釋照幸敬白

寡縁慶重阿

大工沙彌宗悟

雑記 当梵鐘は『筑前國續風土記拾遺第三卷』によると「京西太秦の興隆寺」にあることが記されている。一九九八年夏時点、広島県二日市市吉和所在教龍寺が所蔵している。明德五年の干支は甲戌であるが、製作時の誤彫であることは先学の指摘のとおりである。市河寛齋氏旧蔵拓本より起こした。『日本古鐘銘集成』の銘文は第三区と第四区が入れ替

わっている。私の誤写であろうか。

2 薬師如来坐像 岡垣町三吉 薬師堂  
奉造立

筑前國遠賀庄吉木郷内三吉千手寺薬師像

應七年<sup>庚</sup>六月八日

願主源宣光

造者慶妙

雑記 應七年<sup>庚</sup>六月八日は応永七年<sup>庚</sup>六月八日と判断した。

3 銅造毘沙門天立像 岡垣町高倉一一三 高倉神社

延徳三天辛亥三月吉日

願主須藤駿河守行重

并氏女 大工大江貞盛

小工各々

雑記 芦屋鋳物師の作品である。神仏習合期の作品である。

4 鰐口 岡垣町三吉八六九 西圓寺旧蔵

欽奉猷納吉木郷虚空蔵鰐口之事 右者爲頓証菩提也 泉崇合記室禪師

于時大永四年<sup>甲</sup>十一月十三日 願主慶龜比丘謹白

雑記 銘文は『筑前國統風土記第三卷』によった。平成十九年三月五日

時点で現物の確認ができない。

5 大日如来坐像 岡垣町吉木西一丁目10 隆守院  
膝裏

謹奉造立大日如来

御地頭宗像□□□□

御代為藤原朝臣瓜生益定

佛所□宗□

本願勝業寺豪秀□

右意趣者各々息豪災延命□□□□

現吉安穩後生善所□□□□

皆令満足之由而□

元龜二<sup>辛</sup>未五月五日□□敬白

雑記 當大日如来坐像は元來勝業寺の本尊であった。明治維新の神仏分離令に伴うものであろうか、同寺が廃寺となったため隆守院に安置された。なお、當大日如来坐像は木造であり、銘文は墨書である。

6 鰐口 岡垣町吉木二五〇六五 安樂院

右側

以欽奉掛筑前劔遠賀庄松原山安樂院本堂鰐口

院主隆圓誌

左側

鑄師益忠

元龜三曆仲春吉日 河原七郎右衛門鑄之本願教寿

7 方山道校居士 岡垣町高倉一一四五 龍昌寺境内

正面

方山道彬居士

裏面

井上平兵衛之信後号河村越前守

慶長五庚子三月廿五日

雑記 墓の形式があわない、明治十年代再建か。

8 梵鐘 岡垣町高倉一一一三（宮下） 高倉神社旧蔵

『筑前續風土記第三卷』収録銘文

大日本國西海道筑前州垣前庄高藏八劍大明神御寶殿再聞鐘聲煩惱輕智惠

長菩提生離地獄出火坑願成伸度衆生南無千手千眼觀世音祝々右精峯者試

聽五更樓上鐘百千句法皆成就寄進黒田甲斐守豊臣長政卿慶長五天龍子輯

窮冬如意珠白歌本願宮司職五十八代権大僧都栄源奉行右近允貞延大工大

江長野壹岐守貞親安山隱岐守貞澄太田郷右衛門尉嘉就同民部左衛門尉貞

盛小工七十人

『天宰官内志』収録銘文

大日本國西海道筑前州垣崎庄高倉八劍大明神御寶殿再聞鐘聲頓拙輕智惠

長菩提生離地獄出火坑願成佛度衆生南無千手千眼觀世音祝々、右ノ精旨

者試聽五更樓上鐘百千ノ句法皆成就、奉行吉田左近允貞延・大工大江長

野壹岐守貞親・安田隱岐守貞澄・太田江左衛門尉善就・同氏左衛門尉貞

盛・小工七十人本願宮司職五十八代大僧都栄源慶長五天龍庚子窮冬如意

日敬白寄進黒田甲斐守豊臣長政卿

雑記 原物の確認ができなかったので、銘文は『筑前国續風土記第三

卷』と『天宰官内志』収録の二つを紹介する。『筑前国續風土記第三卷』

は「此鐘ハ豊阿つて撞いて元禄五年新に鐘を鑄て掛く」と記している。

また、『天宰官内志』は「此鐘は古鐘にて宗像氏の家紋付けり長政卿と

あるのは後に切付ケたるか心得ぬかきざまなり」と記している。

五

9 妙見宮鳥居 岡垣町大字原字大松六九五 大原神社

右柱

慶長十七子年十一月十一日

正面額

妙見宮

左柱

黒田筑前守長政建立

昭和五十年五月再建

宮司 久明武春

原区氏子中

石工竹石団市

雑記 福岡城築城に際してこの地が鬼門に当たることからその抑えとし

て藩主黒田長政が寄進したと伝えられている。銘は再建前とは少し異

なっている。『筑前国續風土記拾遺』に「妙見社小波津の東に在原村の

境地之祇園神をも併祭る石鳥井居有銘に慶長十七年十一月十一日興雲公

の建立し賜へる由彫れり」と記している。『岡垣町史』によれば、享保

九年辰七月と天明元年丑七月にも建て替えている。

10 寶樹院殿花源英居士 岡垣町高倉一一四五 龍昌寺

正面

七月十三日

寶樹院殿花琳源英居士

瓜生長門守源英

雜記 瓜生家説明書によると没年を元和五年七月十三日としているが、墓の形式と合わない、再建か。

11 嚴景道江居士 岡垣町高倉一一四五 龍昌寺境内

正面

嚴景道江居士

裏面

井上之信嫡男川越瀬兵衛重信

寛永十癸酉八月十日

雜記 墓の形式が合わない。明治十五年ごろの再建と思われる。

12 井上之房墓 岡垣町高倉一一四五 龍昌寺

右面

居士播州飾東郡松原郷桂産姓藤臣井上氏受領防州實名之房筑之紫府君幕

「下之良臣也覃干巳三代相傳而連称耆英」日國家綱領矣走示勤政也風作

「夜思務力劳心也秋是忠孝義士武威勇将矣巨茲溢干譽芭朝野天必知之強

而不違拳以矣」中年在豊之城井日得官暇入天徳和尚室窺空門有此叟深指

法「味寅磨夕倅攷々而不止終識得趙老柏樹根帶矣即因之日道柏然后龍峯

「下」江月「和尚之室再奉上來底無二無別俱結眉毛於是副雪溪号嗚呼至

矣「尽矣矣昔時大夫見黄龍心聞桂香針芥相投故宗朝喚大夫作有髮僧令也

居士底「亦爾可嘉尚矣後年紫府君俾居士為遠賀庄令者歳」日尚居士亦内

帰佛乘「外施仁政」國齊富家長娛矣令茲寛永甲戌布初冬念又二冀世壽

八十有餘「齡而即羅微恙一臥不起再」俄移終卜瑩土於洞上古刹玉雲精廬

之孔之永「証香火不朽之地令子令孫不漫雁行成孝尽哀慕蘭心不以息記是

銘雖然恐久「漫滅刻著石呂永樹厥譽厥其辞日」〔十一行。〕は改行頭。〕

正面

○庭樹院殿 雪溪道柏 居士

左面

海内名高英傑士忠肝義胆冠諸郎黑田幕下歟將漢祖朝廷「蘇歟張到处有功

汗馬力普時無敵甲兵旁隱舟壑辺蹤空去埋「玉池中孰豈量令子令孫榮紫府

阿爺万代鳴姫陽裸靈依旧」高倉廟仁徳不移遠賀郷碧海漫漫垣崎庄青山

芟々玉雲堂「巍然宝塔密禪苑莞爾盤正覺場秋菊傲霜微妙休寒梅綻雪「法

身香記銘永為恐漫滅彰刻石碑準石棠」〔六行。〕は改行頭。〕

裏面

寛永十一龍集甲戌小春念式萱

前総持寺住山八世比丘金峰老欽誌之

雜記 黒田藩士井上周防之房の墓である。之房は黒崎城城代を務める。

晩年は吉木や陣原に居住。

13 松月源居士覚靈 岡垣町吉木西一丁目14 隆守院

正面

天文十五<sup>丙午</sup>

出松月源居士 覚靈

九月二十七日

裏面

元禄五<sup>壬申</sup>九月 石<sup>□</sup>代<sup>□</sup> 村<sup>□</sup>中<sup>□</sup>  
立<sup>□</sup>之<sup>□</sup>

雑記 麻生隆守墓とされている。裏面が示すとおり、形式的には江戸時代の墓である。『岡垣町史』は海蔵寺の裏に麻生隆守の墓があると記している。麻生文書の中に当碑に関する文書がある。なお、隆守は永禄二年九月二十六日切腹し自害している。

14 喚鐘 岡垣町吉木西一丁目11 三福寺

筑前国遠賀郡由村

三福寺什物 槃響<sup>□</sup>

元禄十四<sup>辛巳</sup>年七月穀祥日

京堀川信

筑後大掾常味作

15 喚鐘 岡垣町高倉一四四五 龍昌寺

〔陽刻〕

史惟

西海道筑前州遠賀郡高蔵

村玉雲山龍昌禪寺曹洞<sup>□</sup>

林利買年諸堂宛備淡器

□是巾比國下劇乱而軍火

焼失氣分也

開山九世孫江湖奥行回宋楞

粉助縁勅縁掛道<sup>□</sup>為修

善奉行先<sup>□</sup>祝日

皇<sup>□</sup>永肩 祖<sup>□</sup>増延

銘日

諸佛刺範 列<sup>□</sup>盛傳

前鐘高掛 懂着錚然

響通地府 聲徹梵<sup>□</sup>

聆者消業 觀者生蓮

李主聡械 <sup>□</sup>兌鉦

存亡二世 有無兩縁

尽出迷界 同登覺圓

法輪常標 闔恭安全

〔陽刻〕

皆寛文十一<sup>□</sup><sup>□</sup><sup>□</sup>八

大測献

素秋吉日

龍昌開山足翁八世孫

不傳周存謹書

鑄工豊前小倉住

安部甚右衛門尉

藤原朝臣定重

16 石階段 岡垣町大字山田字宮ノ尾九三二 氏森神社

右側石柱正面

奉寄進秋武五八良

左側石柱正面

母

宝永元年十一月十一日

山田村

17 奉拜庚申塔 岡垣町吉木西一丁目14 隆守院  
右面

□七「喜吉」□□良「吉六」

〔四行。「は改行頭。」〕

正面

奉拜庚申塔

左面

宝永七寅正月吉日

□□「又平」□左七□□

〔年号下横一列。「は改行頭。」〕

18 水盤 垣町大字原字大松六九五 大原神社

正面

御浦方□

許山嘉六

来島仁作

大庄屋

金戌新左衛門

今林清助

盥盤

新宮

西觸浦庄屋連

福岡

六右衛門

貞六

五助

藤藏

左面

新宮浦

□□「權次」與助「新七」與次右衛門「嘉兵衛」

「藤十郎」平兵衛

裏面

半次郎「德兵衛」平十郎「長作」弥平衛「弥右衛門」

「儀六」仁助

右面

皆天明二<sub>手</sub>年

八月吉日

19 灯籠(一对) 岡垣町手野 大国主神社

右側

正徳元卯年

竹井□□□

同 □□衛

左側

大黒天

竹井六次郎

20 奉拜庚申塔 岡垣町吉木字砥石面 砥石社境内

正徳元<sup>辛卯</sup>天 願主

奉拜庚申塔 正□

十一月十五 □□

雑記 早崎の東にあつた一本松根元に祀られていたものをここに移したと聞く。

21 大乘妙典一字一石塔 岡垣町三吉 同源寺

正面

大乘妙典<sup>一石塔</sup>

裏面

享保八□□

□住□門講中

七月□元日

22 灯塔（一对）岡垣町高倉一一三（宮下）高倉神社

右塔右面

寶曆六丙子

正面

御燈基

左面

秋月中旬

左塔右面

寶曆六丙子

正面

御燈基

左面

秋八月中旬

23 洪鐘 岡垣町吉木西一丁目14 隆守院

東向山隆守院本無銅鐘也 前住惠海師翁欲鑄以掛之 募化男女 実唱於

顯 而力不能果焉 至享保十五庚戌年現住一山公 収於尾其功績矣 然

請予銘歡喜之余說偈寒之需 其偈曰 鐘兮鐘兮 成寿億年 通身是口

胸中豁然 応答無碍 大小随縁 仏門礼楽 宜爾為先 配金山月 占古

城烟 救幽助冥 事理馨円 世出世法 慕口齊宜 音聞仏基 功德無辺

掛在東向 為利人天 顔一聞者 股不覚眠 于時元文二歲次丁己秋七月

十日越後新発田 城杜多禅金毛題焉冶工豊前小倉住中野孫兵衛時則末田

照憲森敬昌太田満重筑前遠賀郡吉木村隆守院現住一山代

雑記 『増補改訂 遠賀郡誌上巻』は、隆守院に洪鐘一口ありと記し、

右銘文を収録されている。なお、平成二十年八月一日現在該当する洪鐘は確認できない。

24 喚鐘 岡垣町吉木西二丁目10 安照寺

享保二十<sup>乙卯</sup>年正月吉旦

肥後八代郡徳生寺

上日壱村

願主 釋泰聖

雑記 太平洋戦争の折、軍により寺の梵鐘を供出した。戦後若松市内に

保管さらされていた金属製仏具の中から当鐘を持ち帰ったと伝えられている。

25 大通智勝如来 岡垣町吉木西二丁目 地藏堂  
延享五天  
正月吉日

26 水盤 岡垣町大字山田字宮ノ尾九三二 氏森神社  
右面

神崎仁右衛門  
正面

水汰  
盥□

御寄進  
左面

宝曆七年  
八月吉祥日

27 猿田彦大神 岡垣町大字手野字新松原 厳島神社  
右面

明和元年  
正面

猿田彦大神  
左面

十二月吉日

28 水盤 岡垣町大字海老津字白谷 白峰神社  
明和五年  
奉寄進  
二月吉日  
當村市三良

雑記 本殿には金毘羅神社の額がかかっている。

29 灯塔(一对) 岡垣町山田宮ノ尾九三二 氏森神社  
右側右面

神傳院六十九世沫□光  
正面

明和五<sub>戊</sub>年  
左面

奉寄進石燈臺雙基  
左側右面

奉寄進石燈臺雙基  
正面

六月吉祥日  
裏面

明和五<sub>戊</sub>年

31 猿田彦命 岡垣町大字波津字黒崎 道端  
正面



猿田彦命

裏面

安永七戌

七良

32 庚申尊天 岡垣町吉木西一丁目15 三叉路

右面

安永八<sup>巳</sup><sub>亥</sub>八月吉日

正面

庚申尊天

雑記 波津から上八への旧道の五差路（道端）に祀られている。天明五年銘石地蔵も祀られている。

33 石地蔵 岡垣町大字波津字黒崎 道端

台座右面

湯川

傳保「長六」加市「熊吉」新六

〔湯川横五行。「は改行頭。」〕

天明五年

二月吉日

雑記 波津から上八への旧道の五差路（道端）に祀られている。安永十年銘の猿田彦命も祀られている。

34 鳥居残片 岡垣町大字波津字大旗 大年神社境内

〔上欠損〕明五年乙巳四〇〔下欠損〕

雑記 大年神社の古い鳥居である。年号は天明五年である。

35 狛犬（一對）岡垣町高倉一一三 高倉神社

右狛犬台石正面

奉獻（横書き）

左面

寛政二庚戌年

五月吉日建立

願主

芦屋浦

越野三郎平

雑記 左狛犬にも同じ銘が刻まれている。

36 高蔵宮鳥居 岡垣町高倉一一三（宮下） 高倉神社

右柱

寛政六<sup>甲</sup><sub>寅</sub>年

正面額

高蔵宮

左柱

正月吉祥旦

37 猿田彦大神 岡垣町吉木西一丁目15 三叉路

右面

寛政八<sub>丙</sub>年

正面

猿田彦大

38 灯塔 岡垣町大字内浦字高入一一二五 若宮神社境内

右側右面

寛政八<sub>辰</sub>年

正面

若宮社

左面

九月吉日

裏面

施主 當邑

若者中

左側右面

寛政八<sub>辰</sub>年

正面

若宮社

左面

九月吉日

裏面

施主 當邑

若者中

39 龍王社鳥居 岡垣町大字戸切字龍王一一九二 龍王神社

右柱

奉寄進 華表一基 施主無量院

正面額

龍王社

左柱

享和四<sub>甲</sub>年二月吉日

赤間関石工松尾伊兵衛法治

40 氏守八幡宮 岡垣町大字山田字宮ノ尾九三二 氏森神社

右面

宝永三<sub>丙</sub>年八月

黒田源左衛門一利再立

左面

文化元年<sub>甲</sub>子六月十日

黒田源左衛門一定再立

裏面

慶長八年<sub>癸</sub>卯八月

氏守八幡宮神殿一字

黒田美作一成建立

大宮司秋武主水正

雑記 山田村大坪にあった氏森神社と山田村押田の聖母山にあった氏森八幡宮を寛永年間に領主黒田公の寄進により合祀したのが現在の氏森神社と聞く。

41 灯塔 岡垣町大字吉木字久保二四五七 須賀神社

右面

文化四卯年

正面

祇園社

左面

四月吉祥日

42 水盤 岡垣町大字糠塚字本村四八〇 須賀神社

文化四年

村中

卯十一月吉日

43 鳥居 岡垣町大字海老津字白谷 白峰神社

右柱

文化七年庚午四月吉日

正面額

白峰神社

左柱

平成二十五年六月再建

宮司久門成春

海老津四区氏子中

石工竹石石材工業

右柱

文化七年庚午四月吉日建立

願主菅屋町井上與六

正面額

金毘羅神社

左柱

別當神傳院 安部宮内

発起寄附

糠塚 永野新九郎

寄附十三ヶ村

當村保正 吉田惣八

當村 若者中

44 水盤 岡垣町吉木西二丁目10 安照寺

右面

文政元寅

下境村

正面

寄進（横書き）

左面

小嶋仁平

母

45 灯塔 岡垣町大字吉木字久保二四五七 須賀神社

右面

雑記 廃材によると旧鳥居銘文は次のように復元できる。

祇園社

正面

奉寄進

左面

文政五十年

廣渡助九良

46 水盤 岡垣町大字馬掛原 景石神社(牧神社)

文政六年

氏子中

九月吉日

雑記 景石神社に牧神社が合祀された。合祀の時期は明治期であろうか。牧神社は当神社の近くにあった大きな牧場の守り神と思われる。貝原益軒は、牧場は神代からあるとしているが、緒元は室町期で、江戸時代には数度の開場、閉鎖を繰り返している。

47 熊野宮鳥居 岡垣町吉木西一丁目15 熊野神社

右柱

文政七<sup>甲</sup>歳三月再建村中

正面額

熊野宮

左柱

〔十前後の文字が彫られているが、摩滅で読めない。〕

48 庚申尊天 岡垣町糠塚の道端

天保六年

庚申尊天

末六月□□辰中

雑記 この道は菅屋から糠塚を通り赤間宿への道である。

49 喚鐘 岡垣町吉木二五〇六五 安楽院

天保七歳

申四月吉日

本寺

長源寺

清譽代

遠賀郡吉木邑

安楽院

隼譽代

施主同村

門司又三良

同 權 三

雑記 江戸時代に、長源寺は安楽院火災再建を支援したと聞く。

50 水盤 岡垣町大字内浦字高入一一二五 若宮神社境内

正面

奉寄進〔左三行上横書き〕

天保十三年

施主村中

壬丙十二月吉日

裏面

世話人 善右  
門市

51 脊柱 岡垣町大字黒山字嶋井崎一〇七一 春日神社

右面

弘化三

午

正月

正面

大師

左面

施主 本村中

世話人

源十

長次郎

52 水盤 岡垣町内浦 長源寺

右面

弘化三丙午

年三月下旬 (二行とも横書き)

正面

發起西信繁代〔横書き〕

53 狛犬(一對) 岡垣町高倉二一三(宮下) 高倉神社

右側台座右面

弘化四丁未年三月

正面

獻

左面

蟹住村大庄屋

松井仁十郎堯鴨

別府村大庄屋

仰木三兵衛茂生

左側台座右面

下底井野村大庄屋

有吉與右衛門真徳

本城村大庄屋

佐藤傳三郎信敏

正面

獻

左面

本城村石匠

小田亦平安佳

54 水盤 岡垣町大字手野字新松原 厳島神社

右面

弘化四<sub>末</sub>年

水貫仕取

正面

獻

左面

本願主庄屋

吉田貞治

組頭 廣渡久治

牟田持

蓮中

55 水盤 岡垣町吉木西一丁目 熊野神社

献

太田清七□「門司清次郎」瓜生佐七「川原□行七」波多

野□□「門司付□」〔太田清七□以下六行。〔は改行頭。〕

嘉永五年

56 旗柱(一对) 岡垣町吉木一丁目5 吉木橋袂

右旗柱正面

奉寄進

裏面

正矢口若連中

左旗柱正面

奉寄進

裏面

安政二<sup>乙卯</sup>年

□月吉辰日

57 狛犬(一对) 岡垣町大字山田字宮ノ尾九三二 氏森神社

右側右面

安政四<sup>巳</sup>年五月吉辰

大祝吏

伊藤民部源尚滋

正面

奉獻〔横書き〕

左面

戸切村庄屋

有吉嘉平篤茂

當村庄屋

嶺源治良宣徳

松丸源八正賢

吉田善兵衛理則

左側右面

松丸源吉茂久

松丸伊藏茂富

正面

奉獻〔横書き〕

左面

下大隈村住

石工

卜部勘十

58 線香立て 岡垣町吉木西一丁目10 隆守院

右面

瓦原良茂作

正面

奉寄進

左面

安政五午年

裏面

□□屋

十作

雑記 瓦質の焼き物である。

59 愛宕社石祠 岡垣町大字内浦字高入一二二五 若宮神社

右面

安政五午十二月

施主村中

左面

時之大祝史

伊藤要人源尚秀

保正 藤原

石山清五郎重國

60 喚鐘 岡垣町吉木二五〇六五 安楽院

筑前国

遠賀郡

吉木村

松原山

安楽院

汁物

施主

門司權三郎

同 又三郎

安政六未歳

八月吉日

現住

薩譽代

61 水盤 岡垣町山田字地藏面九三四ノ一 宝樹院

右面

安政六未歳七月

當山

十八世

建譽代

正面

盥

左面

戸切村

林茂三郎「同和作」「同安治」〔戸切村横三行。「は改行頭。」〕

62 水盤 岡垣町大字戸切字本村九二 善照寺  
安政七申三月  
無量院

林和□

63 道標 岡垣町大字戸切字本村 道端  
右面

永沼又七

正面

是ヨリ右あかま  
左よしとめ 至

左面

安政七年

申十月吉日

雑記 本村集落端、小川に架かる橋の袂に立っている。平成十八年時点  
赤間への道は農道。吉留への舗装道になっている。

64 狛犬(一対) 岡垣町大字原字大松六九五 大原神社

右側正面

献奉〔横書き〕

裏面

文久二戊五月

大先達法印胎藏院徳尹

吾話人

橋本屋半四郎

左側正面

献奉〔横書き〕

裏面

中西次郎兵衛「小野清次郎」「和田武平」「坂口平四郎」「福田屋藤次郎

〔五行。〔改行頭。〕

西一丁組中

65 庚申塔 岡垣町大字原字堀地 西川四国第六十二番札所

右面

文久二壬戌

九月吉辰

正面

庚申塔

邑中

66 高蔵宮鳥居 岡垣町高倉一一三(宮下) 高倉神社

右柱

元治元年申子

正面額

高蔵宮

左柱

三月吉日建之

67 祠 岡垣町大字糠塚字本村四八〇 須賀神社

右面



□床寄進

旗生弥平

吉話人

慶應元年  
乙丑十二月吉辰

惣吉

要次郎

勝十

友田

勘次

左面

生眼八幡宮拜所

石社一字寄進

大庄屋

仰木兼助廣薩

庄屋大庄屋格

旗生大吉衛直繁

入江傳五郎

組頭 二村正五郎

旗生團平

組頭格石松江七

68 水盤 岡垣町大字内浦字高入一一二五 若宮神社境内

慶應三歲

奉 村卜部

納 半治良

卯五月廿四日

69 宝篋印塔 岡垣町大字原字大松六九五 大原神社

塔身正面

基礎正面

礼



塔身左面

礼

塔身裏面

礼

塔身右面

礼

蓮花座正面

肥塚次郎右衛門勝寅「衣斐安六郎重年」井手半右衛門伊直

「大森浅右衛門實久」濱崎五左衛門貞靖「各務弥三大夫一徳

〔六行。〔は改行頭。〕

左面

大先達權大當部法印

胎藏院徳尹代

右面

慶應三年

冬十一月日

台座正面

松尾桂七種久「山田泰助忠重」田中五郎作□平「大神壯助□直

〔四行。〔は改行頭〕

左面

浦大庄屋□□

大嶋□□

津上家□□□□

代□

亀津亀太郎

70 高倉宮道標 岡垣町吉木西二丁目6 四ツ角

右面

慶應二<sup>丙</sup>寅<sup>寅</sup> 歳 拂川大庄屋三輪佐一郎景□

四月吉辰建立 同觸諸用聞掛軒正兵□

正面

南 高蔵宮道

左面

安らくハ 東内ら波つ 北阿しや

南よしき里 むなかた邑西

雑記 左面は草書のため、職者の確認を望まれる。

71 郡境石 岡垣町垂水 垂水峠

従是西宗

雑記 欠損しており、下半がない。72の郡堺石の傍に立っている。

72 郡境石 岡垣町垂水 垂水峠

従是 東遠賀郡  
西宗像郡

雑記 平成二十八年二月五日時点、旧道と郡境が交差する位置に転がっ

ている。傍に71が立っている。

73 郡境石 岡垣町湯川と宗像市上八境 旧道の北側

南面

上八村抱

西面

従是西宗像郡

雑記 波津から上八に通じる道と郡境が交差する位置、道の北側にある。約三十年前には、「波津村抱」「従是東遠賀郡」と彫られた郡境石と当郡境石の二本あったと記憶する。平成二十九年時点は一本しか確認できない。

74 郡境石 岡垣町大字城畑 城山峠の郡境

一面

従是北東遠賀郡

一面

上畑村抱

雑記 元位置は旧道とバイパスの間あたり、景色は著しく変わっている。現在は寄合い堂の踏み台として使われている。

遠賀町篇

1 水盤 遠賀町上別府字高家 天満宮の参道入口

奉寄進〔左三行上横書き〕

元禄八乙亥年

柳野権九郎久満

八月吉日

2 老良社鳥居 遠賀町老良 老良神社

右柱

奉建立鳥居區老良産子中

正面額

老良社

左柱

寶永三<sup>丙戌</sup>年二月吉辰 松本山城守藤原清弘

3 今泉社鳥居 遠賀町別府字宮ノ前 今泉神社

右柱

庄屋柳野権助

華表壹基遠賀郡別符 仝氏庄助 敬建

村中産子中

正面額

今泉社

左柱

正徳二壬辰年六月吉祥日 社人占部市太夫

4 八劔宮鳥居 遠賀町今古賀 八劔神社

右柱

華表壹基遠賀郡今古賀村 村田小次郎敬建

正面額

八劔宮

右柱

正徳二壬辰年六月吉祥日 社人松本内匠

5 庚申神者天穂日尊 遠賀町別府字宮ノ前 今泉神社

正徳二年

庚申神者天穂日尊

八月吉日

雑記 字宮ノ前、千々岩家のところにあつたものを今和泉社に移転したと聞く。

6 青面大金剛 遠賀町鬼津字小鳥掛 集落入口道端

正徳四天正月吉日

青面大金剛

小鳥掛村中

雑記 神仏習合である。

7 庚申尊天 遠賀町虫生津字花園 道端

正徳四天

謹請庚申尊天

午 二月吉日

8 青面大金剛尊 遠賀町尾崎の公園(貴船社跡)

正面

正徳四天

青面大金剛尊

二月吉日 尾崎村

左面

三浦文右工門

雜記 神仏習合であることが分かる。

9 奉請庚申尊天 遠賀町鬼津字西浦 川西四国六番札所

右面

□□

正徳四甲午歳 (下に左人名横一列。「は改行頭。」)

野口□千吉「同喜八」同□二郎「同小七」同七奉□□

「同卒□」同三四良「同□□」山□八□

正面

奉請 庚申尊天

左面

七月題吉祥月 (下に左人名横一列。「は改行頭。」)

二村又彦「同又三郎」同□兵□「同□六」同九平郎

同□二「同□□八」同方一「□久□□一

10 灯塔(一対) 遠賀町上別府字高家 山崎神社

右側柱

奉 正徳五<sub>末</sub>天

寄 山崎大明神

進 二月八日 花園

武七

左側柱

奉 正徳五<sub>末</sub>天

寄 山崎大明神

進 二月八日 花園

□□

11 大神宮鳥居 遠賀町尾崎 大神宮

右柱

華表一基遠賀郡尾崎村二亦伊左衛門敬建

當宮建立癸巳八月廿一日當村二亦利右衛門發起

正面額

大神宮

左柱

享保二丁酉秋八月吉祥日同村二亦清兵衛敬建

12 灯塔 遠賀町浅木八七四 浅木神社内天満宮前

享保七年

天満宮 森藤七□

一月吉日

13 灯塔残片 遠賀町別府字宮ノ前 今泉神社

九月吉辰

今泉宮

享保七壬寅天

14 水盤 遠賀町嶋津 西川西国三番礼所

右面

享保七<sup>壬寅</sup>年六月廿八日

正面

孟盆經一字一石

左面

願主直念塔 主

二

雜記 二つに折れている。欠字あるか。

15 大乘妙典一字一石 遠賀町若松 栄宗寺

右面

利子母 平□母

新子母 藤子母

寄進施主 久七母

□六母 弥□母

利□母 右平母

正面

大乘妙典一字一石

裏面

享保<sup>壬寅</sup>歲

若松山栄宗寺幻住合船□□

七月自□恣日

万次母

保市母

16 天満宮鳥居 遠賀町上別府字高家 天満宮の参道

右柱

奉創建鳥居一口

正面額

天満宮

左柱

享保十季龍次乙巳首春吉且

17 庚申尊天 遠賀町上別府字高家 天満宮の参道端

右面

享保十年

正面

庚申尊天

左面

十月吉日

18 水盤 遠賀町上別府字高家 天満宮の参道端

右面

享保十三年

六月吉日

正面

寄

奉

進

左面

□□茂七

19 高田大明神鳥居 遠賀町虫生津字西ノ前 高田神社

右柱

奉創建鳥居一區

正面額

高田大明神

左柱

享保十三<sup>戊申</sup>祀重陽日虫生津村衆産民等

雑記 正面額と横木は柱と石材が異なる、修理であろうか。

20 灯塔残片 遠賀町上別府字高家 天満宮

享保十四年<sup>己酉</sup>歲

天満宮 村中

二月吉日

雑記 境内や参道に享保期・天満宮の灯塔などの残片が七個あり。

21 巡礼供養塔 遠賀町虫生津 西国第十札所

左面

元文三<sup>戊午</sup>年

正面

西国三十三所順禮供養塔

左面

六月十七日 □□

大野治八

雑記 四国巡礼の記念碑であり、極めて珍しい。

22 大乘妙典一字壹石祈追福者碑 遠賀町松の元三丁目 延命地藏堂

寛保二<sup>壬戌</sup>年

奉納大乘妙典一字壹石祈追福者也

七月吉日

23 大乘妙典一字一石塔 遠賀町木守字西 井手神社横

右面

五穀成就也

正面

奉納大乘妙典一字一石塔

左面

為村中安全

裏面

皆寶曆三癸酉歲

七月吉祥日

雜記 古くは井手神社の境内にあつたと聞く。

24 灯塔（一对） 遠賀町浅木八七四 浅木神社

右側右面

寶曆三〇丙年

正面

奉寄進鬼津觸中

左面

九月吉日

左側右面

奉寄進鬼津觸□

正面

九月吉日

裏面

□□三〇〇年

25 灯塔 遠賀町浅木八七四 浅木神社

寶曆八歲

奉寄進

柳井弥六

□四月吉日

26 奉納大乘妙典一石一字塔 遠賀町浅木三丁目 道端

右面

寶曆九〇〇 吉日

正面

奉納大乘妙典一字一石塔

左面

村中午鳥□□□□

27 鳥居残片 遠賀町若松字丸ノ内 住吉神社

柱残片

雜寶曆十庚辰捻如月吉祥日

雜記 当住吉神社は貞享元年に鳥見山より当地に移つたという。鳥見山は当神社の裏手の岡である。

28 水盤 遠賀町鬼津字小鳥掛 川西四国七十七番札所

□□

明和八辛卯歲

代□

水盤 与□

半□

正月吉日

清□

与□

善吉 □□

雑記 水盤下部が埋まっております、名前が読めない。

29 灯塔 遠賀町若松字丸ノ内 住吉神社

左側右面

天明六<sup>丙</sup>年

正面

献燈

裏面

保正土師宅平致隆

雑記 現在は本来別の灯塔34と組み合わせとなっている。

30 祠残片(綿津見社) 遠賀町虫生津西ノ前 高田神社

右面

天明甲辰歲

六月吉祥日

左面

大保正

毛利喜八

雑記 明治期の合祀か。

31 水盤 遠賀町浅木八七四 浅木神社

右面

天明七年<sup>丁</sup>□□

正面  
盥

左面

奉納

裏面

下底井野邨

若者中

32 香春権現 遠賀町虫生津倉谷(龍ノ鼻) 倉谷権現

石祠内正面

辛國息長大姫

石祠裏面

天明中所再興之辛國息「長大媛社者神所祭豊之「香春地也昔日岩淵翁有  
「欲祭此神志而談毛利有「直々治重先醒之言以石「製羨祠而傳不朽故感  
其「盟誓不差標榿築云」〔七行、「は改行頭。〕

雑記 倉谷権現は香春権現と長女地藏が祀られている。社殿正面は香春  
権現と表示されている。『筑前国續風土記拾遺卷三卷』遠賀郡虫生津に  
「香春大明神竜之鼻に在。豊前国田川河郡香春社を祭ると云。小社之。」  
と記している。なお、『遠賀町史』には石祠内の碑に「辛國息長大姫大  
目命」と刻んでいるとあるが、石祠内正面に「辛國息長大姫」と彫られ  
ており、「辛國息長大姫大目命」と彫られた石碑は確認できない。

33 灯塔(一対) 遠賀町木守字西 井手神社

右側正面



寛政七年

左面

獻燈

裏面

土師守軀

左側正面

獻燈

左面

乙卯□陽

裏面

大宮司

門司三河守成美

34 灯塔 遠賀町若松字丸ノ内 住吉神社

右側正面

獻燈

左面

保正土師宅衛門不伐

裏面

文化八<sup>辛</sup><sub>未</sub>年

雜記 現在は本来別の灯塔29と一対となっている。

35 八劔宮鳥居 遠賀町広渡字井地 八劔神社

右柱

奉建立鳥居一基 大宮司 松本大和守藤原清加羅躬

保正 江藤只吉信行

正面額

八劔宮

左柱

文化九<sup>壬</sup><sub>申</sub>年秋九月 願主 氏子中

雜記 広渡の八劔神社は寛永五年遠賀川堀通により宝永四年廣渡八劔神社として字長江に分霊を勧進、昭和三十六年国道三号線拡張工事のため当地（字井地）に移設された。その折に、当鳥居も移設されたとみられる。遠賀町広渡の八劔神社所在金石文の大半は右記のことを念頭に置いて、考える必要がある。

36 植樹記念碑 遠賀町浅木八七四 浅木神社

右面

箴梅植續

正面

文政三庚辰年正月

裏面

高倉村庄屋

有吉治平

37 住吉宮鳥居 遠賀町若松字丸ノ内 住吉神社

右柱

願主村中

奉再建華表壹基 保正小野傳二基明

右柱

組頭主□□□□

正面額

住吉宮

左柱

維文政三庚辰 三月吉祥日 和泉源□□□

38 奉寄進碑 遠賀町広渡字井地 八剱神社

右面

文政六年

正面

小田傳□□門

奉寄進 御神殿廻

石田□右□

石壇二丁□間

石橋作□□

八田正市□

松本五三郎

左面

癸□九月

□□□□

□□□□

□□□□

□□□□

雑記 左面の銘は植え込み立木のため読めない。

39 山崎宮鳥居 遠賀町上別府字高家 山崎神社

文政七年歲在甲申

保正

有吉長平

組頭

石松正平

同

高氏茂吉

同

石松作市

願主

松下祥輔

棟梁

源七

石工

小倉清八

正面額

山崎宮

左柱

社司

卜部和泉

宮田村

吉柳七平

小牧邨

幸田善市

特盛又右衛門

石松善三

安藤藤十

九日祭日建

石松吉次  
安藤勝平

40 石階段 遠賀町浅木八七四 浅木神社

右側上石柱正面

中底井野

裏面

乙酉九月

左側上石柱正面

觸中再興

裏面

文政八年

41 狛犬（一对） 遠賀町上別府字高家 天満宮

右側台石正面

奉納

左面

保正

有吉長平直徳

筋田彦正郎

裏面

文政八年

酉八月

左側台石右面

筋田善右衛門「筋田利三郎」「筋田文四郎

〔三行。「は改行頭。」〕

正面

奉納

裏面

文政八年

酉八月

42 御潮井台 遠賀町浅木八七四 浅木神社

右側正面

文政八<sup>乙</sup><sub>酉</sub>年

左側裏面

芦屋町保正

太田源次郎重房

43 灯塔 遠賀町広渡字井地 八剣神社

右面

文政十年丁六歳三月

正面

獻

左面

願主

柴田□六直

44 水盤 遠賀町浅木三丁目1 西光寺

當山十四世

載譽代

文政十一年

戊子清月

芦屋町保正

太田源次郎市□

造立

45 御潮井台(一対) 遠賀町若松字丸ノ内 住吉神社

右側右面

文政十一子八月吉日

正面

御願成就 丑年申丑

左面

芦屋金屋早住

雑記 左側御潮井台にも同じ銘文が刻まれている。

46 灯塔 遠賀町若松字丸ノ内 住吉神社

右側右面

献燈

裏面

保正小野□□

左側正面

献燈

左面

文政十二年<sub>己丑</sub>二月

裏面

保正小野理三郎泰明

47 井手大明神鳥居 遠賀町木守字西 井手神社

右柱

奉再興神門式基

故神門者延享十四年門創立文政丙子之秋為大風顛所

越四年闔村之産徒

〔前、この行、原文一行。〕

□□而興復宏麗甚建前規民主之庶富可以知也已

正面額

井手大明神

左面

保正土師源吉□善

天保貳<sub>辛辛</sub>季秋穀旦 岡縣木守邨 闔邨産徒各敬尊

雑記 当時行政区画として縣は使用しない、思想的背景による。

48 須賀社石祠 遠賀町虫生津字西ノ前 高田神社

右面

保正

久治

□

治郎七

宜 □

治郎 □

左面

天保四年<sup>癸巳</sup>七月

願主

村中

雑記 明治期の合社か。

49 百度石 遠賀町浅木八七四 浅木神社

右面

天保四年九月吉日

正面

百度石

左面

塩屋徳助

松本文治

50 灯塔（一对） 遠賀町別府 行萬寺

右側正面

般若燈

左面

天保五年甲午三月

裏面

筋田利三郎知寶「同姓五治郎

右面

同姓文□□「同姓兵右工衛門

左側右面

天保五年甲午三月

正面

無盡燈

左面

組頭 安増弥平治

同 高儀右工衛門

□屋原

松山兵右工衛門

裏面

吉田平五郎「占部治三郎□□幸吉

〔三行。「は改行頭。」〕

51 灯塔（一对） 遠賀町島津字丸山 伊豆神社

右側正面

獻燈

左面

矢野與三郎友久

裏面

天保五年

午九月吉日

雑記 他の一基にも同じ銘が彫られている。

52 旗柱 遠賀町上別府字高家 天満宮

左側右面

正面  
泉原幸四郎

天保七申六月祭日  
永田和二郎  
秦久五郎  
柴田幸右工門

右側正面

仲埜儀四良

奉寄進

卜部□□  
和田次良助

雑記 鳥居をいづれかの時代に旗柱台に作り変えられている。当初は53  
と同一鳥居である。銘文は当初の鳥居時の銘である。

53 旗柱 遠賀町上別府字高家 天満宮の参道  
右側正面

仲埜□□

奉寄進

白□□□

左面

仰木和田次良助

左側正面

柳埜利一

□□七申六月祭日

永田和二郎  
秦久五郎  
柴田幸右工門

雑記 鳥居をいづれかの時代に旗柱台に作り変えられている。当初は52  
と同一鳥居である。銘文は当初の鳥居時の銘である。

54 狛犬(一对) 遠賀町浅木八七四 浅木神社  
右側正面

奉獻〔横書き〕

左面

有吉源十郎祐順

裏面

天保十四年

癸卯二月吉日

左側右面

芦屋町

太田源次郎重房

正面

奉獻〔横書き〕

裏面

天保十四年

癸卯二月吉日

55 宝篋印塔 遠賀町尾崎 川西四国七十五番札所

上函右面 下函右面

天保十五年

正面

三部妙典

一字一石

左面

左面

甲辰十一月吉日

裏面

裏面

発起

台座上から一段右面

發起

松井九郎治

正面

世話人〔左人名上に横書き〕

松井才助〔同平治郎〕〔同正作〕〔秋武右工門〕〔畑生芳平〕

台座上から二段右面

當村

赤田文

戸切村

松井直助

旗生

右工門

當村中

廣田太藏

小鳥掛村

石松藏八

同茂三郎

三原藏兵衛

左面

大城村

小田傳九郎〔同喜三郎〕〔同助吉〕

山田村

松九久七

同源吉

66 御潮井台(一対)

遠賀町上別府字高家 天満宮

右側右面

弘化三年丙午二月吉日

正面

奉獻〔草書〕

左面

芹屋町

桑原傳次郎宗昌

左側右面

芹屋町

桑原傳次郎宗昌

正面

奉獻〔草書〕

正面

57 水盤 遠賀町若松字丸ノ内 住吉神社

奉獻〔横書き〕

裏面

弘化四丁未年

願主

益四郎

58 石祠 遠賀町今古賀 八劔神社

正面扉右

弘化四丁未年 多門院□山

再建 江藤興四郎

十一月吉日

正面扉左

世話人 掛□□七

施津山 稲屋助七

錢屋源治

59 旗柱(一对) 遠賀町今古賀 八劔神社

右側右面

壬子

九月上旬

正面

加藤林平

同 弥平

獻 柴田勘次良

同 政右工門

同 馬之助

左側正面

柴田安正

同 清三

獻 同 武八郎

同 友次郎

同 源三郎

左面

嘉永五年

60 灯塔(一对) 遠賀町広渡字井地 八劔神社

右側右面

嘉永五年十一月

正面

獻〔草書〕

左面

柴田忠次郎勝從〔未木休忠藏重徳〕(二行。〔は改行頭。〕)

左側右面

嘉永五年十一月

正面

獻〔草書〕

右面

原田清門種視〔原田徳三郎種光〕(二行。〔は改行頭。〕)

61 灯塔 遠賀町広渡字井地 八劔神社

右側正面

式日燈嘉永六年癸丑正月

裏面



松本五三郎躬次「松本直右衛門躬久 二行。「は改行頭。」

62 水盤 遠賀町上別府字高家 山崎神社

右面

嘉永七申寅歳

仲夏吉日

正面

獻

左面

普請方

江藤久一榮吉

内浦村庄屋

邨田角平永廷

裏面

神官

卜部勝源祐重

63 御潮井台(二対) 遠賀町別府字宮ノ前 今泉神社

右側正面

奉〔草書〕

左面

嘉永七甲寅八月吉日

左側右面

柳野久吉将英

正面

獻〔草書〕

64 灯塔(二対) 遠賀町広渡字井地 八劔神社

右側右面

安政二年卯□□

正面

式日燈

左面

願主

矢野彌作茂成

裏面

大宮司

松本周防守久武

左側右面

願主

矢野彌三郎武文

正面

式日燈

裏面

安政二年六月

65 灯塔(二対) 遠賀町広渡字井地 八劔神社

右側正面

式日燈

左面

□□二分

柴田嘉兵衛□衛

織田□藏種□

裏面

安政二年卯

左側右面

種英永田休種「織田甚十郎種明」織田大藏種近

〔三行。「は改行頭」〕

正面

式日燈

裏面

安政二年六月

66 御潮井台(一対) 遠賀町上別府字高家 山崎神社

右側右面

安政二年卯九月吉日

正面

奉獻

左面

願主筋田丈七

〔以下風化が酷く読めない〕

67 灯塔(一対) 遠賀町島津字丸山 伊豆神社

右側右面

安政三丙辰六月吉旦

正面

献燈

左面

庄屋

矢野武七郎恒永

左側右面

海老津村庄屋

江藤多吉栄直

普請方□□

正面

献燈

左面

安政三丙辰六月吉旦

68 狛犬(一対) 遠賀町広渡字井地 八剣神社

右側台石右面

安政三年

正面

献

左面

願主

原田長三郎種久

左側台石右面

原田長四郎種保

原田善一種友

正面

獻

左面

辰秋九月

69 石祠 遠賀町上別府字高家 天満宮境内

右面

安政四丁己九月吉日

奉仕宮本院

宗秀法印

左面

施主 高家中

世話人 筋田源七

柳野弥七

雜記 須賀神社を合祀したもの。左面の銘は鞍手町歴史民俗資料館所蔵高崎末男氏資料による。

70 御潮井台 遠賀町虫生津字西ノ前 高田神社

獻 安政五四月吉日  
願主嶺久治保徳

71 狛犬（一对） 遠賀町虫生津字西ノ前 高田神社

右側台座正面

奉獻〔横書き〕

左面

中底井野村庄屋

大庄屋格

嶺要一郎昌英

山田村庄屋

嶺源次郎宜徳

裏面

安政五年歳在

戊午九月吉辰

左側台座右面

下上津役醫師

河島方策從通

虫生津村

嶺泰蔵敬威

正面

奉獻〔横書き〕

裏面

〔剥落して読めない〕

72 愛嶽山鳥居 遠賀郡尾崎 愛嶽山

右面

鳥居一基建立

保正  
組頭

藤田源平教包

松井作平

畑生權三郎

世 門司甚平郎

話 松井孫市

人 吉田清内

廣田大四郎

松井徳四郎

畑生甚三郎

松井源八

同 治郎七

増田□十

二村嘉八

増田□右工門

太閤水石工

同忠治郎

貝掛平市

雑記 神仏習合である。

73 灯塔(一対) 遠賀町虫生津字西ノ前 高田神社

右塔右面

安政六年<sup>巳</sup>未卯月

正面

獻燈

左面

正光

毛利勝平

同苗茂右工門

吉光

裏面

大祝司

卜部主膳源裕重

左塔右面

中間市 峯五三郎久壽 畠山嘉右工門正壽

正面

獻燈

左面

安政六年未四月吉辰

正面額

愛嶽山

左柱

安政六年<sup>巳</sup>未三月吉辰

組頭 門司文十郎

同 吉田定藏

芦屋町 高寄儀郎

門司仁一郎

同 吉治郎

吉田清一

箕生善平

高寄源十

箕生喜三郎

森田貞吉

伊豆善十

林治三郎

同 源吉

大越家權大僧都法師

大善院玄栄

雑記 左塔は再建とみられる。

74 水盤 遠賀町虫生津字西ノ前 高田神社

右面

當村

繩手藤十秀政

正面

奉獻〔横書き〕

左面

安政七年

申正月吉日

75 狛犬(一対) 遠賀町木守字西 井手神社

右側台石右面

太閤水石工

貝掛嘉一郎義廣

正面

獻

左面

田村作十茂永〔同姓市平一房〕白石彦三郎珍美

裏面

萬延元年庚申八月吉日

大宮司

門司三河守成實

左側右面

村田重右衛門定實〔同姓八十三貞次〕同姓卯三郎定則

〔三行。〕は改行頭。〕

正面

獻

裏面

萬延元年庚申八月吉事

大宮司

門司三河守成實

76 狛犬(一対) 遠賀町別府字宮ノ前 今泉神社

右側台石右面

萬延二年西歲

彌生吉辰建之

正面

獻

左面

大保正

仰木廉介廣蔭

保正

大保正格

江藤多吉榮直

左側台石右面

保正

大保正格

筋田庄藏久□

保正

田村角本永延

保正

江藤園藏英敬

正面

獻

左面

大祝吏

占部主膳源祐重代

77 御潮井台(二対)

遠賀町木守字西 井手神社

右側右面

文久元年西九月

正面

奉獻

左面

田村要助直信

左側右面

田村要助直信

正面

奉獻

左面

文久元年西九月

78 狛犬(二対)

遠賀町上別府字高家 天満宮

右側上台石右面

世話人

江藤□吉「村田角平

正面

獻

右側下台石左面

本城村大庄屋

佐藤又三郎信英

尾崎村庄屋養育方

大庄屋格

藤田源平教包

戸切村庄屋

江藤多吉榮直

裏面

虫生津村庄屋

大庄屋格

毛利壽平直温

中底井野村庄屋

柴田太平秀信

若松村庄屋

小野徳平俊正

山田村庄屋

嶺源次郎宣徳

木守村庄屋

土師新作守信

〔人名二行。「は改行頭。」〕

虫生津村普請方

嶺貞五郎祐知

下底井野村普請方

有吉長平徳次

左側上台石正面

獻

左面

文久紀元歳次辛酉十二月穀旦

宮司

宮本院□良秀法印

左側下台石右面

下底井野村庄屋

大庄屋格

有吉仁右衛門正則

鬼津村庄屋兼普請方

大庄屋格

小野傳七重成

別府村大庄屋

仰木産助廣□

左面

石匠山鹿村

才七

裏面

海老津村庄屋

江藤圓藏英俊

小鳥掛村庄屋

小村才作□生

今古賀村庄屋

村田角平永延

広渡村庄屋

柴田惣藏直俊

嶋津村庄屋

矢野七郎恒永

別府村庄屋

大庄屋格

筋田利七郎久敬

79 御潮井台 遠賀町島津字丸山 伊豆神社

右面

文久元丙十二月

正面

保正 矢野武七□

組頭 矢野熊□□

全 柴田半四郎

全 大□仁三郎

雑記 下部が埋まっている。

80 水盤 遠賀町別府 行萬寺

右面

永田岳市「同 半四郎」同勘衛門「同 要右郎(四行。「は改行頭。」)

正面

文久二壬 戊年二月

奉寄進(横書き)

□山現住天道

左面

千代丸

永田新七「同武三郎」同卯三郎「同半兵衛」(人名四行。「は改行頭。」)

81 石垣 遠賀町上別府字高家 天満宮

奉 廣渡村

木守村

寄 下底井野村

虫生津村

進 今古賀村

尾寄村

左 鬼津村

戸切村

右 □□村

若奈村

石 嶋津村

小鳥掛村

垣 別府村

文久二年祀次壬戌二月上洵日

82 石段欄干 遠賀町上別府字高家 天満宮

右側上柱正面

安増赤平

奉再興 同伴次良

同新次良

左面

同半良一「同弥平次」

裏面

文久二年壬戌二月下澆

左側柱上右面

正徳六年三月□□

正面

千代丸

奉寄進安増次良八

83 高淤加美神石祠 遠賀町上別府字高家 山崎神社

裏面

貴布祢大神崇齋□

□産徒亦新建石祠

文久三癸亥仲春□營之

神官

卜部伊豫頭源□

84 狛犬型灯塔(二対) 遠賀町浅木八七四 浅木神社

右側火袋正面



文久四年〔横書き〕

左面

甲子正月吉辰〔横書き〕

右側台石正面

別符村大保正

仰木廉助廣隆

戸切村保正

大保正格

江藤太吉榮直

高倉  
山田両村

大保正格

波多埜次郎泰業

虫生津村保正

大保正格

毛利寿平通温

吉木村保正

大保正格

三輪猪八郎宣知

島津村保正

矢野武七郎恒永

今古賀村保正

村田角平永延

左面

木守村保正

土師新作□□

山田村保正

嶺源次郎宣徳

三吉村保正

野中伊六積秀

虫生津村

普請才判役

嶺貞五郎祐知

下底井野村

普請寄廻

有吉義平徳俊

中底井野村保正

柴田和兵衛門直正

内浦村保正

石山小三郎重道

波津村保正

辻田市三郎廣治

左側火袋右面

文久四年〔横書き〕

正面

甲子正月吉辰〔横書き〕

左側台座右面

尾崎村養育方

大保正格

藤田源平教包

下底井野村保正

大保正格  
有吉仁右衛門正利  
別符村保正  
大保正格  
筋田利十郎久敬  
糠塚村保正  
大保正格  
旗生六右衛門直繁  
松原村保正  
吉田員次直廉  
尾崎村保正  
小野治平俊正  
正面  
野間村保正  
原治郎平重徳  
黒山村保正  
岩崎平作矩長  
原村保正  
花田孫平種徳  
小鳥掛村保正  
小村戈作信正  
海老津村保正  
江藤圓蔵英敬  
鬼津村保正  
仰木藤次敏慎

若松村保正  
藤田源八教道  
手野村保正  
竹井甚三郎茂宣

85 御潮井台 遠賀町島津字丸山 伊豆神社  
右面

文久元丙十二月  
正面

保正 矢野武□

獻 組頭 矢野能□

全 柴田班四郎

全 大□仁三郎

86 狛犬(一対) 遠賀町虫生津字西ノ前 高田神社

右側台石正面

獻

左面

元治歳宿

甲子

六月建立

下上津役村

仲男 醫師

河島□□□

虫生津村組頭

寂男 嶺泰藏敬威

左側台石正面

献

裏面

中間村抱

大保正格

嶺要一郎昌英

山田村長

嶺源次郎宜徳

裏面

中間村

石工浜十

87 狛犬（一对） 遠賀町老良 老良神社

右側台石正面

献

左面

慶應三年

裏面

添田善次「原田弥七

左側台石右面

丁卯十二月吉日

正面

献

左面

〔二行。「は改行頭。」〕

石工 宮田

□積吉

裏面

添田新三郎

88 喚鐘 遠賀町別府 行萬寺

南無阿弥陀仏〔この行陽刻〕

鞍手郡上木月村

奉寄進小川喜右エ門

延享五辰年四月

同末裔

再鑄 小川源四郎

安政五午年三月

同末裔

参鑄 小川条次郎

明治三十四年十二月

宗林山

行満寺第十七世

内藤大歡

記之

南無阿弥陀佛〔この行陽刻〕